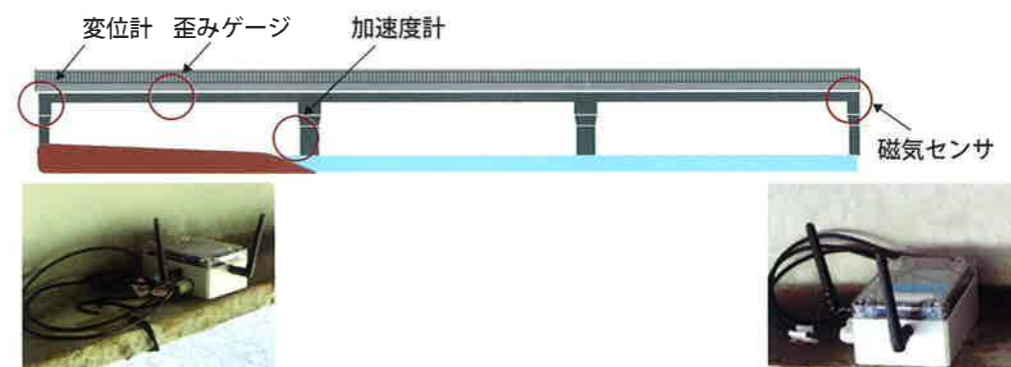


異常時対応システムでは、洪水や地震などの災害発生時に現地へ行くことなく 安全かつ迅速に橋梁の点検を行うことができます。

もし地震や洪水が発生したら、橋梁の点検が必要です。



北九州市管轄の紫川を渡河する青嵐橋において、実証実験を行いました。



異常時対応システムでは、災害発生時に遠隔地のユーザパソコンから橋梁の情報が収集できます。

| 製品名 | 製品の用途の概要 | | 対象とする主な事象 |
|-----------|----------|-------------|---------------------|
| 異常時対応システム | 地震時対応 | 支承の被災度判定 | 被災の有無、通行の可否の判定 |
| | | 橋脚、基礎の被災度判定 | 被災レベルの判定、通行の可否の判定 |
| | 洪水時対応 | 基礎の洗掘状況の判定 | 洗掘の進行状況の判定、通行の可否の判定 |

システムの基本仕様

- 橋りょうの主な箇所無線センサを設置して、振動による加速度等を測定します。
- 測定したデータは、橋りょうに設置した記憶装置に集約します。
- センサと記憶装置の見通し等を考慮して、必要に応じて中継器も設置します。
- これらのデータを携帯電話回線を使って収集します。
- 収集したデータを分析して、被災時の緊急点検の診断を行います。

■ データ収集指示画面

必要に応じて収集するデータを選択できます。

■ 解析画面

収集したデータから健全度の解析を行います。

■ 無線センサネットワークシステムの基本構成 (異常時対応システム)

